



野鳥の 不思議解明 最前線 #63

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2011

種子を食べるウソ *Pyrrhula pyrrhula*. 種子食の彼らも、種子散布に貢献しているのだろうか? 撮影●内田博

種子食の鳥も意外に種子散布に貢献?

～ヒタキやツグミ並みに種子散布に貢献するズアオアトリ～

ここ数日、急に冷えてきましたね。北向きで陽があたらないうちの事務所は、この厳寒期、暖房なしですぞすのには結構しんどい場所です。とはいっても、みんなが出勤していない休日、一人で暖房を使うのは心苦しいので、服を着込んで暖かいものを飲みながら仕事しています。それでも耐えられなくなると・・・(懐かしの)ビリー隊長のブートキャンプに入隊して身体の中から暖めます。鈍った身体を鍛えられ、エコだし一挙両得です。

さて、この寒波が原因か、先週頃より事務所のまわりを落ち着きのない移動途中のようなツグミがたくさん飛びかっています。ツグミのような果実食の鳥は、植物の種子を散布する役割を担う「種子散布者」といわれています。自分で移動することのできない植物が分布を拡げるためには、ツグミなどの種子散布者に果実を食べてもらい、移動先で糞と共に種子を排泄してもらうことが重要なのです。特に今、事務所のまわりにいるような移動中のツグミは長距離の散布も可能にするありがたい鳥です。

このように果実食の鳥が種子散布を担う反面、アトリ科の鳥のような種子食の鳥は種子そのものを消化してしまうので、植物にとっては「捕食者」だと考えられてきました。ところが意外にも種子散布者としても大きな役割を担っていそうだとわかってきました。

この研究をしたのはイギリスの Heleno さんたちのグループです。彼らはポルトガルのサンミゲル島

で行なったバンディングの際に、鳥の糞を採集し、その中に含まれる種子を回収しました。種子散布者であるといわれているヒタキやツグミの中間の糞の73.9%からは種子が検出され、これらの鳥が種子散布に重要な役割を果たしていることが確認できたのですが、種子食のアトリ科の鳥の糞からも26.1%と、意外に多くの種子がでてくることわかりました。つまり、種子食の鳥の嘴や砂肝での破壊を免れ、消化されずに糞にでてくる種子も意外に多いことがわかったのです。

種子散布への貢献度は、この排泄される割合だけでなく、どれくらい「散布者」がいるかなどで決まります。センサスで各種鳥類の生息数を推定し、糞中の出現率とあわせて考えると、個体数の多いズアオアトリ *Fringilla coelebs* は、この場所での重要な種子散布者であるクロウタドリ *Turdus merula* やズグロムシクイ *Sylvia atricapilla* と同じくらい種子散布に貢献しているのではないかと推定されました。

この研究の面白いところは、捕食者という一面ばかり見てしまうと見えなくなってしまう側面を示してくれたところです。ぼくたちも、もちろん研究面でもそうですが、それ以外の面でも、固定観念に囚われず、大きくありたいものですね。

紹介した論文

Heleno, R.H., Ross, G., Everard, A., Memmott, J. & Ramos, J.A. 2011. The role of avian 'seed predators' as seed dispersers. *Ibis* 153: 199–203.